

百

日本の
森・滝・渚
全国協議会 会報

選賛美

2020
vol. 13

百選地探訪
西沢渓谷遊歩道、七ツ釜五段の滝
〈山梨県山梨市〉
苗名滝、惣滝
〈新潟県妙高市〉

会員百選地通信
事業レポート
自然敬愛宣言



P02 令和2年度総会開催地

鳥取県岩美町

「青い海と白い砂 豊かな自然と温泉のまち 岩美町」
鳥取県岩美町の見どころを紹介

P05 百選地探訪

協議会事務局が会員百選地取材し、百選地に関連した施策やまちづくりなどの取組みを紹介します。



P06 山梨県 山梨市
西沢渓谷遊歩道、ヒツツ五段の滝



P12 新潟県 妙高市
首名滝、惣滝

P18 会員百選地通信

全国の会員から寄せられた百選地情報です。ぜひ一度は訪れてみたところばかりです。

- 岩手県宮古市／十二神自然観察教育林、浄土ヶ浜
- 宮城県蔵王町／三階の滝
- 秋田県由利本荘市／法体の滝
- 山形県鶴岡市／羽黒山参道の杉並木、高館山自然休養林、七ツ滝
- 富山県立山町／立山美女平・ブナ坂・下ノ小平、称名滝
- 静岡県南伊豆町／弓ヶ浜海岸
- 三重県名張市／赤目四十八滝
- 三重県熊野市／布引の滝、七里御浜
- 岡山県真庭市／神庭の滝
- 広島県三次市／常清滝

P24 事業レポート 山口県光市

山口県光市で開催された令和元年度総会・自然敬愛サミット・現地視察の様子を紹介

P28 自然敬愛宣言

平成26年度の総会で採択された自然敬愛宣言

P29 会員・役員名簿

日本の森・滝・渚全国協議会の会員名簿及び役員名簿

編集にあたって
日本の森・滝・渚全国協議会2020年会報の編集にあたりまして、取材や寄稿等のご協力をいただきました会員各位に厚くお礼申し上げます。本会報は、会員相互の情報交換や百選地を活用した地域づくり等に広くご活用いただければ幸いです。今後ともよろしくご願い申し上げます。

日本の森・滝・渚全国協議会では、ホームページから概要やイベントなど全国の百選地情報を発信中です。
URL <http://www.mori-taki-nagisa.jp> もしくは「森滝渚」で検索。



日本の森・滝・渚全国協議会
自然環境に関する全国組織「森林浴の森全国協議会」と日本の滝全国協議会、日本の渚全国協議会が合併し、「日本の森・滝・渚 全国協議会」が誕生しました。



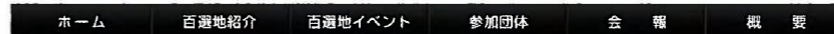
百選地イベント情報



100選地に選ばれた各名所では、四季を通していろいろな催しが行われています。



地域をクリックで、各参加団体(エリア)ごとの100選地をご紹介します



森・滝・渚の各百選地を紹介 (概要・アクセス・周辺ガイドなど)



百選地のイベント情報を掲載



地域別に百選地を検索



会報のバックナンバーも掲載



令和2年度
総会
開催地

青い海と白い砂 豊かな自然と温泉のまち

鳥取県岩美町

Iwami Town

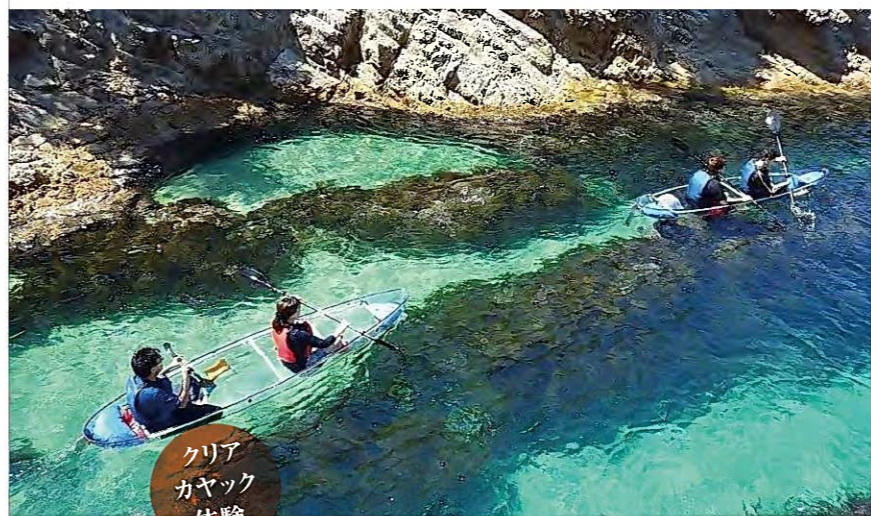


岩美町は、鳥取県の東端に位置する人口約11,500人の自然豊かな町です。町域面積は122.38km²で、町の中央を中国山地の扇ノ山を源流とする蒲生川が日本海へ流れています。町内全域がユネスコ世界ジオパークに認定されている「山陰海岸ジオパーク」の一部であり、日本列島が大陸の一部であった時代からの歴史を今に伝えるジオスポットが町の至るところに点在しています。なお海岸部は山陰海岸国立公園の一部でもあります。

また岩美町から車で10分ほど西へ走ると、鳥取県を代表する名所「鳥取砂丘」が広がっており、岩美町からもその姿をくっきりと見ることができます。

【日本の渚百選 浦富海岸】

日本の渚百選「浦富海岸」は、東は兵庫県の県境、西は鳥取市福部町と接する東西およそ15kmの日本海に面したリアス海岸の総称です。永年、日本海の荒波と風雪によって浸食さ



クリア
カヤック
体験

洞門をくぐり抜けるなど、冒険気分を味わうことができる

西脇海岸



目が覚めるような美しさから「寝覚めの佳境」とも

菜種五島



元々は一つの岬だったものが、長い年月を経て5つの離れ岩となった

千貫松島



名前の由来は鳥取藩主池田公が「この岩つきの松をわが庭に移した者には禄千貫を与える」と言った逸話から

す。また夏には海水浴場が開設され、県内外から観光客が訪れ海水浴を楽しみます。昭和の文豪 島崎藤村は、浦富海岸を訪れた際に美しい海岸風景の代表的存在として日本三景の松島を挙げたうえで、「松島は松島、浦富は浦富である」と絶賛しました。

【1200年の歴史を刻む温泉】

浦富海岸から約5kmの山間に、ひっそりと佇む温泉街があります。1200年の歴史を誇る山

陰最古級の温泉、岩井温泉です。柔らかく肌を包み込むお湯は神経痛、リュウマチ、婦人科疾患に良いとされています。正真正銘「ほんもの」の源泉かけ流しで、のどかな中に旅籠情緒が漂う古き良き日本の温泉です。

岩井温泉には、江戸時代から伝わる「湯かむり」という入浴法があります。頭に手拭いをのせ、柄杓でポカポカ湯を叩きながら汲んでは頭にかむるこの奇習は、少しでも長く湯につかり温泉の効能にあやかろうとして始まったともいわれています。この時調子を取るために唄われる「湯かむり唄」は、ユーモラスな歌詞の数え唄で「岩井八景づくし」「忠臣蔵づくし」などいくつか種類があり、長いものでは百番までもあるといわれています。



岩井温泉

1200年の歴史を誇る名湯

【日本の恵み】

岩美町グルメの筆頭として挙げられるのは、冬の味覚の王者「松葉がに」です。松葉がにとはズワイガニのオスの地方名であり、岩美町は松葉がに漁獲量日本一を誇ります。かにすぎ、焼きがになど様々な味わい方がありますが、産地だからこそ食べられるかにしゃぶ、かにの刺身は、ぜひ召し上がってほしい一品です。またズワイガニのメスは「親がに」と呼ばれ、卵をたっぷり抱えた親がにを使ったかに汁は岩美町の冬の食卓になくしては



松葉がに

冬の味覚の王者。漁期は11月上旬から3月まで



モサエビ

地元でしか食べられない幻のエビ。旬は3月～5月



ばばちゃん

ユニークな見た目と愛称が話題に

ならないものです。

岩美町の冬の味覚はかにだけではありません。ちよつとグロテスクな深海魚「タナカゲンゲ」は、見た目からは想像もできない淡白で上品な味わいです。地元ではお婆さんに似た容貌から「ばばちゃん」の愛称で親しまれ（諸説あり）、そのユニークさから注目が集まっています。唐揚げや鍋料理など、幅広い食べ方が楽しめます。

そして、是非とも岩美町で味わっていただきたいイチオシグルメが「モサエビ」です。全国的にはあまり有名でないモサエビですが、それには理由

があります。モサエビは足が早く、古くなる

ぐに黒ずんでしまうため、地元でしか味わうことのできない「幻のエビ」なのです。その身はトロツとしており甘みが強く、焼いても、蒸しても、刺身でもおいしくいただけます。

これらに併せ、白イカ、夏輝（岩ガキ）、赤がれい、新雪（梨）、マコモタケの8つの食材を総称して「いわみ八宝」と呼んでいます。岩美八宝を使ったグルメは、岩美町の旅館、民宿、お食事処で味わうことができます。



- 東京から
羽田空港 → 鳥取砂丘コナン空港(約75分) → JR鳥取駅(連絡バス 約20分) → 岩美駅(山陰本線 約25分)
- 大阪から
大阪駅 → 鳥取駅(スーパーはくと 約2時間30分) → 岩美駅(山陰本線 約25分)
- 中国自動車道佐用JCT → 鳥取自動車道 → 鳥取IC → 国道29号線 → 隠岐山バイパス → 岩美ICまたは蒲富IC(約3時間)
- 岡山から
岡山駅 → 鳥取駅(スーパーいなば 約1時間50分) → 岩美駅(山陰本線 約25分)
- 岡山から
国道53号線 → 中国自動車道佐用JCT → 鳥取自動車道 → 鳥取IC → 国道29号線 → 隠岐山バイパス → 岩美ICまたは蒲富IC(約3時間)

森・滝・渚 百選地探訪

このコーナーでは、事務局が会員百選地に赴き、百選地に関連した施策やまちづくりなどについて取材し、その取組みをご紹介します。取材にご協力いただきましたご担当者の方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。



A. 西沢渓谷遊歩道、ヒツ釜五段の滝(山梨県 山梨市)



B. 苗名滝、惣滝(新潟県妙高市)

山梨県 山梨市

やまなし

西沢溪谷
遊歩道、
七ツ釜
五段の滝

にしぎわけいこくゆうほどう、
ななつがまごだんのたき



「みたしたべたし やまなしし」をぶらり

山梨市は、山梨県の北東部、甲府盆地の東部に位置し、平成17年に3市町村（山梨市、牧丘町、三富村）が合併して現在の地勢となったことから、北は埼玉県及び長野県と接しています。

市の面積の8割が森林を占めており、北部から標高2千メートル超の秩父山系の山岳地帯、果樹栽培が盛んな丘陵地帯へと続き、南部は甲府盆地にあたる平野部で、駅や行政機関などの主要施設のある市街地を形成しています。

人口は約3万5千人、面積約290km²を有し、アクセスについては都心から車で1時間半



程度、J-Rを利用して新宿駅から快速な特急列車に乗って1時間半ほどで到着することができます。

また、秩父山系を源とする笛吹川が市内を縦断するように流れ、これに沿って伸びる国道140号を起点として標高差に伴う自然景観が織りなす美しさを思いつきり満喫できるまちはです！

”森林セラピー基地”西沢溪谷 （百選地 西沢溪谷遊歩道・七ツ釜五段の滝）

最初に訪れたのは、市の北部に位置し、秩父多摩甲斐国立公園内にある”森林セラピー基地”西



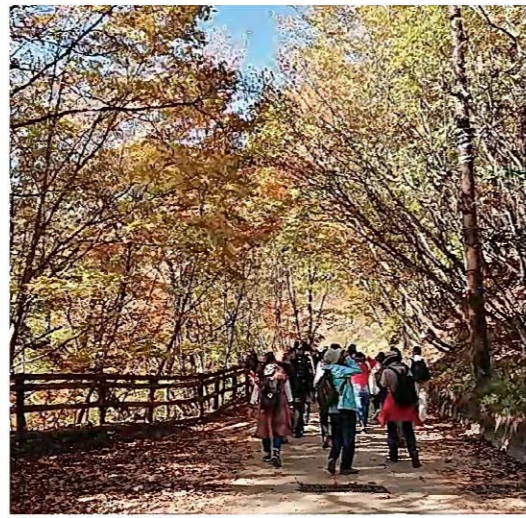
「西沢溪谷」ガイドマップ

沢溪谷です。

この中にある「西沢溪谷遊歩道」は森林浴の森日本百選となっており、また、遊歩道の一番奥には、日本の滝百選の「七ツ釜五段の滝」があります。遊歩道は1周歩いて4時間程度を要するハイキングコースで、晩秋を迎えて地面に散りばめられた落ち葉の上を、川の流れる力強い音を聞きながら歩いていると、とても爽快な気持ちになりました。

ハイキングコースといっても、ほとんどの人が「登山スタイル」で歩いており、なるほど、歩いて行くにつれて、こう配が徐々にきつくなるとともに、人とすれ違うことも難しい道幅となりましたが、そこは退避箇所でお互いに譲り合いの気持ちを保持して気分よく良く進むことができました。

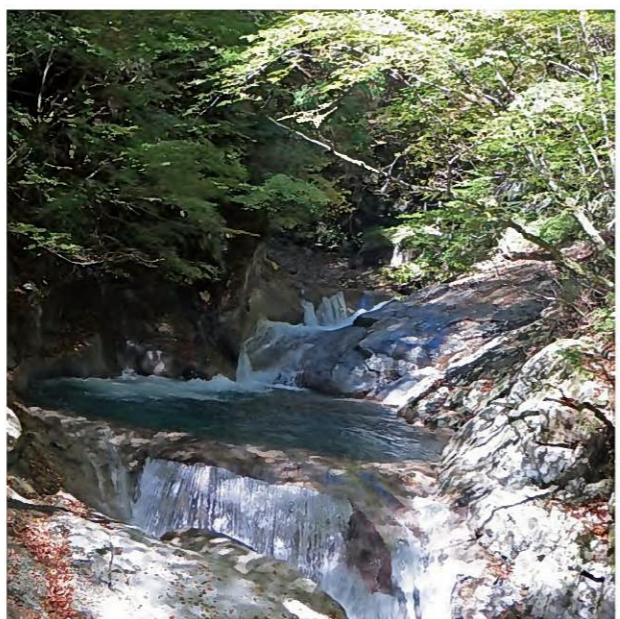
観光客のピークは、毎年11月3日を挟んだ連休とのことで、その頃は遊歩道いっぱいの人々で溢れるそうです。



西沢溪谷遊歩道入口付近

遊歩道をさらに進んで行くと、二俣吊橋を渡り、三重の滝、龍神の滝といった名所を見ることができ、クライマックスに5つの滝と7つの滝壺からなる七ツ釜五段の滝となりますが、今回は、時間の都合上、三重の滝で折り返すこととなり、その先の七ツ釜五段の滝までは行くことはできなかつたのが、非常に残念でした。

また、5月頃の新緑の季節に訪れると、それぞれの滝において、青緑色の美しい水としぶきの白、新緑の緑といった晩秋とは全く違ったコントラストを楽しむことができます。



三重の滝



二俣吊橋



三重の滝（※新緑の季節の頃）



七ツ釜五段の滝

北の玄関口 道の駅「みとみ」

市内には「みとみ」と「花かげの郷まさおか」の二つの道の駅がありますが、今回は、西沢渓谷の近くの道の駅「みとみ」を訪ねました。

店内には、「ほうとう(後ほどご紹介します)」や甲斐国の名将武田信玄にちなんだ「桔梗信玄餅」、ブドウやモモを加工したお土産など、地元の特産品の数々を販売する売店やオリジナルの料理を揃えた食堂があり、また、近くには釣りやバーベキューができる久渡の沢釣り場もあります。



道の駅「みとみ」



桔梗信玄餅

また、最近では犬を連れた観光客も増えていることから、隣接スペースに市職員の方がドックランを作製しており、付近の美しい山々の紅葉を背景に温かい「手作り感」のある施設がとてもマッチしていました。



“手作り感”のあるドックラン

山梨名物“伝家のほうとう”を 食べました

山梨の食といえば、なんといっても地元の郷土料理 ほうとうです。

地元の方々にとっては、「ほうとうは各家庭で食べるもの」との認識もあるようで、市内には、ほうとう専門店が多くありましたが、訪れたお店の駐車場には、確かに山梨ナンバー以外の車ばかりが並んでいました。

味噌ベースのお出汁の中に、平らで太いうどんを中心として豚肉やかぼちゃ、白菜などの野菜がふんだんに入っており、食べたらずくに体がポカポカになりました。



山梨の郷土料理「ほうとう」

訪ねたお店は
味自慢の名店でした



見どころたくさん、 楽しみ方もいろいろのスポット 「笛吹川フルーツ公園」

笛吹川フルーツ公園は、市街地が見渡せる山の斜面に位置し、ブドウなどの果物の歴史や文化を紹介する「くだもの館」、ドーム型の屋内アスレチック施設「わんぱくドーム」、おしゃれなパークカフェ、マルシェの旬の野菜やくだもの、さらには、山梨土産やワインなどが並ぶ「フルーツセンター」などなど、一日中楽しむことができます。



笛吹川フルーツ公園

話題のインスタ映えスポット 名瀑「一之釜」

西沢渓谷から南へ下った笛吹川沿いの「名瀑一之釜」では、まず、穏やかな女滝を目にする事ができ、さらに吊り橋を渡ると、男滝では、落差21メートルの水流により、辺りは「ゴォー」という爆音が鳴り響くとともに、霧吹き状の水しぶきが辺りを包んでいました。

こうした、まさに名瀑らしい迫力に加えて滝全体の美しさ惹かれ、最近では、インスタ映えスポットとして写真を目当てに訪れる人々が多く、人気急上昇とのこと。



インスタ映えスポット 一之釜(男滝)

また、公園内の「新日本三大夜景広場」からは富士山を背景とした甲府盆地が一望でき、特に、夜には、恋人の聖地として市街地に二面に広がる最高の夜景をみることができそうです。



新日本三大夜景広場からの夜景

揺るぎなきフルーツ王国 やまなし

山梨県のブドウ生産量は、全国でダントツ1位である上、デラウエアやピオーネ、巨峰、シャインマスカットなどといった種類も大変豊富です。

また、これらを原料としたワインも様々な種類があり、山梨から日本、さらには世界に向けて自信をもってアピールできる独自の風味を持っています。

加えて、モモの生産量も全国1位で、市内の丘陵地にはブドウやモモといった多くの果樹園をあちこちで目にしました。



山梨市で造られたワイン



山梨の特産「ブドウとモモ」

絶景が自慢の 「ほったらかし温泉」

湯船につかりながら、富士山を望み甲府盆地を見下ろすことができる絶景の大パノラマが売りの「ほったらかし温泉」を訪ねました。

口コミが口コミを呼び、ほったらかししている間に？人気の日帰り温泉に！

ここの湯（元湯）とあつちの湯（新湯）の二種類があり、多くの芸能人もお忍びで訪れるそう。温泉に隣接してキャンプ場もあることから、平日の昼間にもかかわらず駐車場には多くの車がとまっています。（ここも関東一円のナンバーの車がずらりと並んでいました。）



ほったらかし温泉



お風呂上りに昭和の雰囲気を味わっては？

「鉄道王」 根津嘉一郎の生誕地

市街地に戻り、鉄道王と称された実業家初代根津嘉一郎の実家である屋敷「根津記念館」を訪ねました。

ここは、国の登録有形文化財にも登録され、屋根や欄間、天井など至る所に細かい工夫が施されているほか、冷蔵庫やボイラーなど昭和初期としてはありえないような先駆的な機能を備えた近代和風建築となっています。

嘉一郎氏は東武鉄道の社長など鉄道会社24社、その他多くの会社経営にかかわった実業家である一方で、「社会から得た利益は社会に還元する義務がある」との信念のもと、山梨県下の全小学校にピアノを贈呈するなど社会貢献



市民の憩いの「根津記念館」

を重んじる生き方を実践した人で、それゆえに市民の方々にいつまでも大切に語り継がれています。

最後に

山梨市を訪れたのは、関東地方などを襲った台風19号が過ぎ去ってちょうど1ヶ月後で、台風の直後は一部の地域で断水や道路の通行止めなどがあつたようですが、幸いにも甚大な被害はなく、訪問した際は元通りの全体的に落ち着いた雰囲気が漂う素敵なまちでした。

ご紹介した以外にも多くの観光スポットがあり、このように美しい自然やおいしい食べ物、温暖な気候などに惹かれて都心部などから移住定住される方も多いとのこと。この度の訪問により、その理由を大いに納得したところです。

次回、訪れた際は、是非、西沢渓谷を「七ツ釜五段の滝」まで、完全歩破したいです。

新潟県 妙高市

みょうこうし

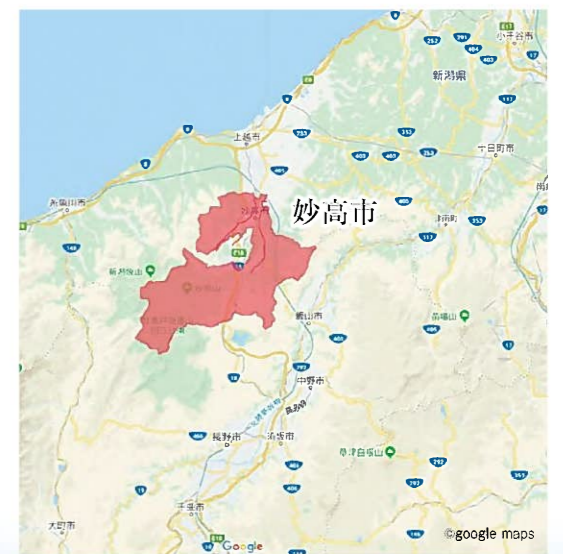
苗名滝、惣滝
なえなたき、そうたき



「アクティブかつ癒し」のまち
休日は妙高へ

妙高市は、新潟県の南西部に位置し、上越市、糸魚川市、長野県飯山市、長野市、北安曇郡小谷村、上水内郡信濃町といった多くの市町に接した、人口約3万2千人、総面積は445・63平方キロメートル、その75%は森林という大自然に囲まれる中で、農業、工業、観光業が融合するバランスのとれたまちです。

日本海側気候の影響により冬は多雪となり、おおむね12月から3月にかけては、平野部でも一面の銀世界となります。そして、「世界のスノーボードリゾートTOP10」にも入る9つのスキー



場には、豊富で上質な雪を求めて、国内外から80万人ものスキー・スノーボ客が押し寄せ、一大ウィンターリゾート地として大いなる賑わいを創出しています。

妙高市のシンボル 「妙高山」

妙高市のシンボルとしてそびえ立つのが「妙高山」。

私が妙高市に到着したときは、もう暗くて見えなかったのですが、翌朝、宿泊させていただいた旅館の部屋のカーテンを開けた途端、うっすら雪をかぶった妙高山が目飛び込んできて、思わず



日本百名山「妙高山」

「わー!!」と声を出してしまいました。

妙高山は、標高2,454mの幾度もの噴火によつてできた成層火山で北信五岳のひとつであり、別名「越後富士」と呼ばれています。

また、日本百名山にも選定されているほか、平成27年3月に誕生した日本で32番目の国立公園である妙高戸隠連山国立公園に属しており、古くから神の山として信仰を集めてきました。

山麓では、寒暖の差が激しい気候を利用して、様々な野菜が育てられており、そうした大自然がもたらす恵みは、人々の生活に豊かさや潤いを与えています。

百選地

「苗名滝」「惣滝」

取材当日、まず向かったのは、日本の滝百選に選定されている「苗名滝」。

高さ55mの落差を誇る苗名滝は、上流の「二の滝」から「四の滝」まで続く中で最も規模が大きい勇壮な滝で、柱状節理を持つ玄武岩の断層でできています。

また、その豪快な様子と音から「地震滝」とも呼ばれ、その迫力に圧倒される一方で、マイナスイオンをたっぷり浴びることのできる癒しの場所



日本の滝百選「苗名滝」

もあります。

滝の周りに生い茂る木々の、四季を通した移ろいもまた大きな魅力であり、私が訪れた時は、もう紅葉は終わってしまっていたのですが、最盛期の頃は絶景であること間違いありません！また行ってみたいな。。。

そして、苗名滝から車で30分ほど北上した所に位置するもうひとつの百選地「惣滝」。



日本の滝百選「惣滝」

ちょっと遠くから眺めることになりませんが、落差80m、幅6mの直瀑で、断崖の上部から豪快に水が滑り落ちる様は圧巻という言葉がぴったりで、近くまで行くことができないということがまた、神秘性を醸し出しています。

そして、惣滝を臨む展望台に向かう途中にあるのが野天風呂「黄金の湯」。このお湯、もちろん温泉なのですが、なんと！タダで入れます！



癒されることまちがいない!「黄金の湯」

タダより高いものは…とよく言いますが、これはお得感しかありません!ぜひ、きれいな乳白色で秘湯感たっぷりのお湯に浸かって、高山を臨む絶景と癒しのコラボをお楽しみください!

「妙高七五三の湯」で心と体の錆落とし

温泉ブーム真ただ中ですが、ぜひ訪れていたきたい妙高高原温泉郷「妙高七五三の湯」。

七五三が何を意味しているかというと、「七」つの温泉地、「五」つの泉質、「三」つの湯色。とっても覚えやすいいいゴロです。

妙高市には、そんなバラエティ豊かな温泉がそこかしこにあって、それらを巡るだけでも十分に楽しめて、心は癒され、体は元気になります。目



湯めぐりはいかが! 妙高高原温泉郷

的に「湯めぐり」するのもおすすめ!

また、七つの温泉地のうちのひとつ「赤倉温泉」は、日本美術の父ともいわれる岡倉天心が最も愛した場所で、終焉の地とされたということで、温泉はもとより、そうした「美」を追究する芸術家にも選ばれるほど、その風景もまた素晴らしいものであるといえます。

そんな妙高高原温泉郷で、日常の喧騒を忘れ、心も体もリフレッシュすれば、またいろんなことに頑張ることができるはず!



絶景! 露天風呂

心いろづく歴史の館

「北国街道・関川の関所道の歴史館」

江戸時代初期、北国街道の信越国境(信濃と越後の境)に設けられたのが「関川関所」。

この関所は、特に厳しい取り調べが行われる「重き関所」に位置付けられ、高田藩が管理していました。主に江戸から逃れようとする女性を重点的に取り締まるため、「人見女」と呼ばれる地元の老女により、衣服や髪を改められることもありました。



北国街道の要所「関川関所」

道の歴史館では、関所を当時のまま再現しており、貴重な文献資料やジオラマの展示、ミニ映画の上映など、関所の歴史を学ぶことができるほか、その雰囲気は、時代をタイムスリップしたような錯覚を抱きます。

今では、当たり前のように日本中を往来できますが、その当時は移動手段が徒歩である上、こんな厳しい関所をいくつも越えなければならぬなんて…考えられません…。

豊かな自然環境はアウトドア活動の宝庫

妙高市が誇る豊かな自然環境を最大限に活かすとともに、魅力発信のツールとなるのが「アウトドア活動」。

取材の途中で、観光案内所に寄らせていただいたのですが、何気に見ていた妙高グッズの中に、アウトドア用品の人気ブランド「mont-bell(モンベル)」のロゴが入ったタンブラーを見付けました。

お話をうかがうと、妙高市とモンベルが、相互の連携を強化し、地方創生の実現に向けて豊かな自然を活かしたアウトドア活動等の促進を通じて、地域の活性化に寄与することを目的とした包括連携協定を締結しているとの



「mont-bell」とのコラボ商品

こと。そのモンベルを特別協賛として、海で発生した水蒸気が、雨や雪となって山に降り、やがて川となって森や里を潤しながら、再び海へと還ってゆくように、海(カヤック)から里(自転車)、そして山頂(登山)を目指す環境スポーツイベント「SEA TOSUMMIT」を毎年7月に開催しているということです。

さらに、これもまたアウトドア用品の人気ブランド「patagonia(パタゴニア)」を特別協賛とし、山岳エリアと信越高原の各地域を繋ぐ全長160kmにも及ぶ登山道や林道を2日間かけて走破する「信越五岳トレイルランニングレース」を毎年9月に開催しているということで、民間企業と連携しながら豊かな自然環境を活かした妙高市ならではのアウトドア活動が盛んに行われていることに感銘を受けました。



鉄人レース?!「信越五岳トレイルランニングレース」

ちなみに、SEATO SUMMITやトレイルランニングレースには到底出場できませんが、タンブラーは購入させていただきました!

新潟妙高の地酒 「君の井」

新潟県といえば米どころ!米どころといえば酒どころ!そんな新潟のおいしいお米か

まるでショッピングモール

「道の駅 あらい」

かつては総売上高日本一に君臨したこともある「道の駅 あらい」。

国道からも高速道路からお客さんがやってくるというその実績も納得の、広大な敷地には数多くの飲食店、さらにホテルまで完備されており、一大ショッピングモールの様相を呈しています。

最近では、ただ立ち寄る場ではなく、そこが目的地となっている道の駅ですが、その代表的なものといえるのではないでしょうか。



道の駅を超越「道の駅 あらい」

ら、おいしい日本酒を造り続ける酒蔵「君の井酒造株式会社」。

君の井酒造株式会社は、天保13(1842)年の創業以来170年余りに渡り、自然の乳酸菌を育み仕上げるというこだわりの製法を継承しつつも、「旨味」を大切にしながら時代に見合った日本酒造りを追究しています。

製造工程についてお店の方に案内していただきましたが、近代的な設備を取り入れながらも、必要な手間は決して惜しまず、長年の研究と経験に裏打ちされた自信と旨味へのこだわりは尋常ではないことをひしひしと感じました。

また、2019年度の「全米日本酒鑑評会・純米部門」で「山廃純米」が金賞を受賞し、世界的にも高く評価されたお酒であることが証明されたところで、これからさらに選ばれる日本酒となっていくこと間違いありません!

そして、待つてました!試飲の時間です!食レポのセンスが全くないので、大変申し訳ないのですが、やわらかな香りと主張しすぎないコク、後味がスッキリしているので、飽きずにくらでも飲めてしまいそうでした。皆さんもぜひTHE日本酒を愉しんでください!

また、豪雪地帯における環境や観光に配慮した防災拠点としての役割もあり、様々な分野で存在意義の高い施設といえます。

ちなみに、私は「くびき野情報館」に売られていた「妙高とん汁ラーメン(カップラーメンです)」に心を奪われ、つい買ってしまいました!。(おいしかったですよ!)

現在、国道を挟んだ向かいに拡充工事が行われており、2020年の春にはオープンするということで、ますますパワーアップする「道の駅 あらい」にご期待ください!

見た目のインパクト抜群 「レッド焼きそば」

こんな辛そうな焼きそば食べられるじゃろか!と思っていた「レッド焼きそば」。

目の前に出てきたときは、ほんとにびっくり!マジで真っ赤じゃん!と、まず掴みはパッチリの焼きそばです。

食べてみると、おいしい!でも、これは何味なんだろうと、ずっと思いながら食べ続け、結局よくわからず…。改めて食レポはできないかと確信しました。

この赤の素は、トマトとパプリカから作った特製レッドソースで、太めの米粉を使った麺にすること



趣ある外観「君の井酒造株式会社」



世界も認めた「旨い酒」



辛そうに見える、辛くはないよ

どうまくソースと絡んだそうです。また、上越地域には「三大焼きそば」があり、上越市の「ホワイト焼きそば」、糸魚川市の「ブラック焼きそば」、そして妙高市の「レッド焼きそば」、この3色の焼きそばで「三色同麺」という同盟を結んでおり、ともにイベントなどに参加しているほか、持ち回りで食のイベント『食の嵐』を開いており、地域活性化の一翼を担っています。

妙高市は、ウィンターシーズン、グリーンシーズンともにリゾート気分を味わえるとともに、アクティブとヒーリング、動と静が絶妙に融合する魅力あふれるまちです。

休日、どこに行こうかなあと迷ったら、ぜひ妙高市へ!!